

2019年度 公益社団法人鎌倉青年会議所 理事長報告

第55代理事長 潮見 雅利

「覽古考新」「過去から学び、自ら考え、新たなまちを描こう」、2019年度の公益社団法人鎌倉青年会議所はこれらのテーマとスローガンを掲げ、1年間運動を展開してきました。今、私たちが生きている瞬間は、過去からの歴史の流れの1点に過ぎないことを念頭に置いた上で、先輩諸氏が55年もの間築き上げてきたまちづくりの歴史やそこに込められた想いを理解し、今のまちに存在する問題を見定め、新たな解決策を提示することが当会議所に求められるまちづくりであると考えました。

本年は、一人でも多くの人と共にまちのことを考え問題を解決していこうとする共感の輪を広げ、愛着を持って未来を創っていけるまちの実現に向けて、市民の皆様がまちを理解するために必要な、まちの全体像を広く発信する場を創り出すための活動を行ってきました。

「まちを良く理解し未来を創っていくためのきっかけの創出」のテーマのもと、まちづくり委員会は活動しました。3月の「県議会議員選挙の公開討論会」では、立候補予定者が考える政策、まちへの思い、人柄などを直接感じる機会をつくり、来場者の多くの方に県政を身近なものとして捉えていただくことができました。次に、「第51回慈善茶会」では「新たな未来を共に」というテーマのもと、近年最高の来場者数に恵まれ茶道を通じて各世代の人と人を結びつけ新たな地域コミュニティ創生に向けた一步を実現しました。そして、その後の懇親会では、慈善茶会の成功に向けてご尽力いただいた関係諸団体の皆様や共に汗を流した仲間たちと交流の場を設け、信頼関係や繋がりをさらに強固にすることができました。最後に、11月の「鎌倉舞フェスタ」では大船観音寺を舞台として、大船の地で踊りと祭りをテーマに老若男女問わず1000名を超える来場者のもと、世代を超えた地域コミュニティを創出しました。

「運動を発信する原動力となる、会員拡大と会員の資質向上」のテーマのもと、拡大研修委員会は活動しました。拡大活動については、過去の手法を精査した上で本年度新たに異業種交流会を月1回のペースで開催するなど、様々な工夫を凝らしてくれました。最初はなかなか結果が出なかった拡大活動も、委員会一丸となった努力によって徐々に身を結び、本年度卒業生の数を超える8名もの会員拡大を成し遂げることができました。例会について振り返ると、2月の「青年会議所の意義や魅力を学び共有しよう」では、神奈川ブロック協議会会長公式訪問への参加を通じて、会員が青年会議所運動の意義を深く理解することができました。次に、6月の「3LOM合同例会 湘南の未来を考える」では、SDGsを通じたまちの問題への解決手法を学ぶとともに、近隣LOMとの仲間の繋がりを

強化することができました。次に、8月の「自分で決めた目標を達成しよう～できる大人の目標達成術～」では、会員の意識変革を促すことで青年会議所運動を率先して行動できるようになる人材になるための一助となったと同時に、多くのゲストの方に参加いただき3名もの入会者を出すことができました。最後に、12月のアカデミー会員による事業では、アカデミー会員がともに事業構築のプロセスを勉強することによって、早期に当会議所を支える会員に成長する一助となりました。

「これまでのまちづくり運動を知り、感謝し、共感の輪を広げて未来へとつなぐ」のテーマのもと、55周年記念委員会は活動しました。3月の「55周年記念メモリアルデー」では、これまで当会議所の発展を支えてきた先輩諸氏、そしてスポンサーLOMである公益社団法人横須賀青年会議所に対する感謝を表すとともにこれまでの当会議所の運動を知ることができました。次に、10月の「55周年記念事業 子どもの自己肯定感と非認知能力を伸ばす子育てと教育」では、これまで当会議所ではあまり着目してこなかった保護者の視点から見た子育てと教育にスポットライトを当て、子どもの未来について考えるきっかけを作りました。結果、多くの市民に来場いただき、共感の輪を広げる一助となりました。最後に、記念品としてポロシャツの作成、55周年記念誌の作成を通じて当会議所の認知度向上を達成することができました。

「すべての運動の基礎となる組織」のテーマのもと、総務渉外委員会は活動しました。1年を通じて総会や理事会などの会議設営により、会員が運動を創ることに集中できる環境を整えることができました。次に、1月の「賀詞交歓会」、7月の「次年度理事長を祝う会」、そして12月の「卒業生を送る会」では、先輩諸氏や関係諸団体の皆様との交流の場を設けました。また、4月の「失敗しない！！広報戦略事業～時代の流れを超越したSNS活用術～」では、当会議所の運動を各世代の市民に対して発信する方法を学びました。そして、9月の「第47回神奈川ブロック大会横須賀大会への参加」では、神奈川ブロック協議会の運動意義を知ることで、まちの課題解決に向けたヒントを得ることができました。最後に、年間を通じた渉外、広報活動によって市民に共感を得る一助となりました。

また、本年はLOMにとどまらず、大崎厚郎君が公益社団法人日本青年会議所関東地区神奈川ブロック協議会の会長として、1年間神奈川ブロック協議会の運動を先頭に立って牽引してきました。当会議所としても牧田運営専務や松永事務局長をはじめ多くの会員に出向していただき、LOM一丸となって下支えをしてきました。その結果、神奈川ブロック協議会の運動が滞りなく発信できたことの一助となったと同時に、全ての会員が更なる成長を遂げたと確信します。

上記の通り、全会員一丸となって活動した結果、2019年度の当会議所はこれだけの成果を残すことができました。しかし、JC活動への参加という面において残念なことが

ありました。それは、第114回臨時総会にて4名もの会員が除名となってしまったことです。会員それぞれに理由はあるにせよ、今後の会の運営について大きな課題を残す結果となってしまいました。社会環境が大きく変わる中で、会員の置かれた立場や環境も数年前とは大きく変わっていることは必然のことです。しかし、これからも変わらないことは、私たちがJC活動を行えているのは、それを支えてくれる自らの会社、従業員、家族、そしてJC活動を共に行う同志の支えがあるからだということです。自らを支えてくれる人に対する感謝、そして同志に対する気配りを忘れず、JC活動を行う意義をしっかりと周囲に伝えながら活動が続けることが大切なのではないかと考えます。

結びになりますが、当会議所の運営を私の一番近くで支えてくれた米澤専務、牧田副理事長、二見副理事長、そして全ての会員の皆様、先輩諸氏、私がJC活動を行うにあたって快く送り出してくれた家族に深く感謝と御礼を申し上げ、2019年度の報告といたします。1年間本当にありがとうございました。

副理事長報告

副理事長 牧田 芳明

2019年度、拡大研修委員会の担当副理事長を務めさせていただきました。柿崎委員長率いる拡大研修委員会は、拡大活動のほかに2月、6月、8月の3つの例会とアカデミー事業であるルーキーズを担当しており、現在青年会議所が全国的に力を入れて取り組んでいる重要な事業に携わる機会を頂けたこと感謝しております。

本年度は拡大活動に関して新たなチャレンジを試みてきました。異業種交流会の定期的な開催や日本の賛助企業でもあるアチーブメント様の講師を呼んでの公開委員会等を行い、様々な形での拡大のアプローチにチャレンジしたことが8名という拡大の実績につながったと考えております。またルーキーズ事業においては、実際の背景目的の構築とは別に、ペーパーレス事業の実施という挑戦を試みて、次年度以降への新たな可能性を示すこともできました。拡大とアカデミー、現在日本本会も含めた日本全国の青年会議所が最重要課題として携わっている事業です。その事業に1年間携われたことは様々な学びを頂けた1年となりました。

最後になりますが、1年通して委員会を引っ張ってきた柿崎委員長、それを支えてきた長野副委員長をはじめとする委員会メンバー、共に1年を活動してきた正副メンバー、そしてこの機会を頂きました潮見理事長をはじめと致します鎌倉青年会議所の全てのメンバーに感謝を申し上げ、副理事長報告とさせていただきます。

1年間ありがとうございました。

副理事長報告

副理事長 二見 宏史

本年私は55周年記念委員会の担当副理事長を務めさせていただきました。

本年度は、55周年の節目にふさわしい潮見理事長のテーマやスローガンのもと、55周年記念委員会は大きな各々の事業を行うことができ、大変意義深い一年でした。55周年記念委員会の具体的な活動報告につきましては、委員会報告をぜひ御覧ください。

特に印象深いものとしては、対外事業として10月に行いました公益社団法人鎌倉青年会議所設立55周年記念事業「子どもの自己肯定感と非認知能力を伸ばす子育てと教育について」についてです。本事業は、潮見理事長のご出身である東京大学の現役教授で、NHKなどのテレビにも多数ご出演されている先生を講師にお迎えし、記念事業にふさわしい会場で、多くの市民や教育関係者をお呼びすることができました。このことは、新たな試みとしての成功であると思います。

そして松永副委員長には委員長が不在の中、55周年記念誌の作成を中心になって行っていただきまして、大変感謝しております。松永副委員長に記念誌作成を分担していただければ、本年の私のJC活動及び55周年記念委員会の活動は、いずれも決して最後までやりきれなかったはずです。

最後に、当会議所を牽引しながらも55周年記念委員会を支えてくださった潮見理事長、不測の事態の中でも柔軟に対応してくださった正副の皆さま、少ないメンバーの中で例会運営にご尽力くださった委員会メンバーの皆さま、事業構築に根気強くお付き合いくださり貴重なアドバイスやサポートをしてくださいました樋渡理事長をはじめといたします、全てのメンバーに感謝を申し上げ、副理事長報告とさせていただきます。

1年間ありがとうございました。

専務理事報告

専務理事 米澤 寿人

私は本年度、潮見理事長体制の専務理事として、一年間活動をさせて頂きました。専務と言えば理事長を支える重要な役目。潮見理事長からお話を頂いた時は、この様な大役を引き受けて良いのかという不安もありました。ですが、それ以上に同期入会であり、同期委員長の潮見君が理事長の大役を務めると聞き、何かできる事があれば手伝いたい。その一心で専務の職を受けた事を今でもはっきりと覚えています。

潮見理事長が掲げる「覧古考新」のテーマのもと、正副の一員として総務渉外委員会を担当させて頂きました。当委員会では5例会を担当する事となり、その他にも会議の設営、広報、渉外を担うなど大変でしたが、片根委員長をはじめとする委員会メンバーの活躍により、一年を無事に終える事が出来ました。本当に大変な一年だったとは思いますが、やりきることが出来たことこそが一番大切な事だと考えています。

その他にも、専務としての役割は目に見えない部分が多いことに驚きました。先輩諸氏との連絡調整では、様々な案件がある度に総務担当の磯部先輩に様々なアドバイスを頂きました。そしてLOM内の事務作業では、予定者の段階から年末最終日まで、松延さんに助けられました。神奈川ブロックをはじめとする対外との調整では牧田副理事長に大変お世話になりました。今年一年、多くの人に支えられてここまで専務という役を続けられた事に感謝いたします。そして改めて、青年会議所は機会の提供を行う組織であると同時に、その機会を成し遂げる為に多くの方々に助けて頂ける素晴らしい組織だと実感しました。

専務という役職は本当に大変な役職だと思います。ですが、大変とは「大きく変わる」という文字のごとく、専務という大役を務めるために自分はどう変わるべきなのかを考えさせられる一年間でした。私は今年一年、公私ともに本当に大変な一年でした。ですが、それこそが鎌倉青年会議所が私に与えて下さった機会の提供であり、私自身、大きく変わったと思っています。今後、会員の皆様にも多くの機会があると思います。その時には、少し背伸びをしてその機会を活かして頂きたいと思います。背伸びをするという事は、今の環境が変化するという事であり、背伸びをすればするほど大きく変わるチャンスだと考えています。

最後になりますが、未熟な私に機会を頂いた潮見理事長、いつもアドバイスを頂いた今村監事、大崎監事、ご指導を頂いた樋渡直前、そして私を支えて下さった全ての会員の皆様、先輩諸氏の皆様へ感謝を申し上げ、専務理事報告とさせて頂きます。

2019年度 委員会事業報告

まちづくり委員会

拡大研修委員会

55周年記念委員会

総務渉外委員会

まちづくり委員会

- 委員長 名：西崎 肇
- 副委員長 名：三橋 肇
- 委員 名：岩本 和憲、岩濱 サラ、波多江 悠、宮沢 輝、御代川 太、森山 圭多、脇本 遼

1) 事業報告

(I) まちの問題に関心を持つ事業

- (a) 内 容：統一地方選挙の県議会議員選挙の公開討論会
- (b) 時 期：2019年 3月26日(火)
- (c) 開催場所：鎌倉商工会議所 地下ホール
- (c) 対 象：正会員19名、立候補予定者4名、一般市民61名

(II) 第51回慈善茶会の開催

- (a) 内 容：第51回慈善茶会の開催
- (b) 時 期：2019年 5月12日(日)
- (c) 開催場所：大仏殿高德院
- (d) 対 象：正会員27名、OB30名、お客様599名、来訪JC93名
茶道裏千家淡交会鎌倉支部20名、茶道裏千家淡交会鎌倉青年部30名
鎌倉女子大学茶道部20名、県立七里ガ浜高校茶道部10名、
県立深沢高校茶道部10名、鎌倉ユネスコ協会20名、こぼとナーサリー21名

(III) 関係諸団体と信頼関係をより深める交流事業

- (a) 内 容：第51回慈善茶会後の懇親会の開催
- (b) 時 期：2019年 5月12日(日)
- (c) 開催場所：二楽荘
- (d) 対 象：正会員18名、OB12名、来賓18名

(IV) 活力にあふれる地域コミュニティを創出する文化事業の開催

- (a) 内 容：世代間交流文化事業
- (b) 時 期：2019年11月17日(日)
- (c) 開催場所：大船観音寺
- (d) 対 象：正会員23名、出演団体206名、出店団体22名、一般市民720名

2) 委員会報告

本年度のまちづくり委員会では、地域コミュニティを活性化させていく為に、まちの良い側面を伸ばしつつ、市民一人ひとりが各世代の交流を深め、まちに興味を持ち、まちを知る機会の提供が必要であり、世代間交流の場を増加させることにより、このまちの新たな姿を思い描くきっかけとなると考え、一年間活動しました。

まちの問題に関心を持つ事業の開催では、4年に一度の統一地方選挙の神奈川県議会議員選挙における公開討論会を開催し、当会議所が中立の立場で、あまり知られていない県議会議員の仕事の内容から、立候補予定者が考える政策、まちへの想い、人柄などを直接感じる場を創出することで、無投票であった前回と比べ、本公開討論会が市民の皆様にも県政を身近に感じる事の出来る良い機会となったと考えます。次に、第51回慈善茶会では、昨年50回という節目を迎えた翌年であり、令和という新しい時代に、テーマを「新たなる未来を共に」とし開催しました。当日は茶道裏千家千宗室御家元による献茶式をはじめ関係諸団体による呈茶、そして本年は母の日という事で、オリジナル懐紙のプレゼントや和菓子作りのワークショップなど、様々な所で新たな試みをさせて頂きました。本茶会を通じて各世代の人と人を結び付け、地域コミュニティ活性化の一歩として、市民がまちを知り、世代間の交流を深めるまたとない機会となりました。そして茶会後には関係諸団体と信頼関係をより深める交流事業として懇親会を開催しました。当事業においては様々なアトラクションを設え、その中でも懇親会の記録を写真で共有することで、関係諸団体と継続的な体感共有が実現でき、茶会のテーマに沿った交流が未来へとつながっていくことが出来たと考えます。最後に、活力にあふれる地域コミュニティを創出する文化事業の開催では、「踊り」をテーマに各世代の人と人が結び付く新しい交流の場として、地域コミュニティ活性化の一歩となる事を目的とし「鎌倉舞フェスタ」を大船観音寺にて開催させて頂きました。当日は天候にも恵まれ、来場者、出演団体、関係諸団体を合わせて約1000人規模の事業となり、今の鎌倉のまちには無い初めての事業として、多くのメディアにも取り上げられたのはもちろんの事、当会議所をあまり知らない来場者、出演団体にご満足頂ける内容の事業を実施できたことは、まちづくり事業として広く認知される一助になったと確信します。

当委員会の活動を本年度テーマである「覧古考新」の精神で推し進めたことにより、市民がまちへの関心を高められることができ、世代間交流事業を増加し発信していったことで、このまちの新たな姿を思い描くきっかけを創出し、地域コミュニティ活性化の一助とすることが出来たと考えます。

最後になりますが、まちづくり委員長という大役を仰せつかったことを大変光栄に思うとともに、自分自身が大きく成長できる貴重な機会を与えて下さった潮見理事長、事業をより良くするために様々な意見をいただきました正副役員と監事の皆様、どんな時でも支えてくれた三橋副委員長をはじめとする委員会メンバーの皆様、そして委員会の垣根を超えてご協力賜りました鎌倉青年会議所のメンバー皆様に、心から感謝を申し上げ、委員会報告とさせていただきます。1年間本当にありがとうございました。

拡大研修委員会

- 委員長名：柿崎 孝宏
- 副委員長名：長野 トーマスマコト
- 委員名：石井 政彦、磯野 享史、奥西 希生、中村 太一、根本 紗央里

1) 事業報告

(I) 会員拡大と継続拡大基盤の作りの実施

- (a) 内容：会員拡大活動並びに継続拡大できる基盤作り
- (b) 時期：2019年 1月～12月
- (c) 対象：会員を対象に40名程度並びに入会希望者
- (d) 結果の公表：ホームページ並びに総会資料に掲載

(II) 青年会議所運動の方向性を学ぶ事業の実施

- (a) 内容：神奈川ブロック協議会会長公式訪問への参加
- (b) 時期：2019年 2月 5日(火)
- (c) 開催場所：鎌倉商工会議所301会議室
- (d) 対象：正会員34名、

(III) まちへの関心を高めて学ぶ事業の実施

- (a) 内容：6月例会3LOM合同例会「湘南の未来を考える」
- (b) 時期：2018年 6月11日(火)
- (c) 開催場所：ライブハウスハニービー
- (d) 対象：公益社団法人 鎌倉青年会議所 20名
一般社団法人 逗子葉山青年会議所 8名
一般社団法人 藤沢青年会議所 21名

(IV) 若者たちと語り運動やまちの魅力を伝える事業の実施

- (a) 内容：8月例会「自分で決めた目標を達成しよう」～できる大人の目標達成術～
- (b) 時期：2019年8月20日(火)
- (c) 開催場所：鎌倉芸術館 集会室
- (d) 対象：正会員23名、対象者25名

2) 委員会報告

本年度の拡大研修委員会では、まちで活躍する若者を一人でも多く集めて、まちに対して関心を高め、組織一丸となった運動をしていく必要があると考えました。

本年度では新たな試みとして入会へのハードルを下げ、青年会議所への関心や理解を深める為、また

仲間やお知り合いを誘いやすくするために拡大のツールとして月一回で異業種交流会を行いました。毎月行う事は非常に大変でしたが対象者との関係性を高めるのに有効でした。

2月例会では、本年度、会長、運営専務、事務局長等多くのメンバーが輩出となった日本青年会議所関東地区神奈川ブロック協議会の会長公式訪問を例会といたしました。こちらではメンバーに神奈川ブロックの運動指針や青年会議所会員としての考え方を学び大きな運動を行うスタートを切ることができました。

6月例会では、普段は関わる事の少ない逗子葉山青年会議所や藤沢青年会議所とまちの事を考える為に日本青年会議所が推し進めているSDGs 2030カードゲームを例会で行いました。交流を介しLOMの垣根を越え意見を出し合い真剣にゲームを行いSDGs に関する知識を高めることができました。

8月例会では、対象者を多く集めてアチーブメント株式会社をお招きし目標達成への技術学ぶ例会を行いました。対象者を30名集めるという目標を掲げ努力しましたが25名と言う結果に終わりましたが当日に3名の方に入会への意思表示をいただきました。また例会では参加してくれた方が自己の成長につながったのではないかと考えます。

拡大活動は青年会議所にとって課題であり、常に行っていかなければなりません。本年度以降少しでも継続していく為に引継資料としてデータを残して行ったり、異業種交流会を引き継いだりで行ないました。

結びとなりますが青年会議所の事を深く理解していない私には非常に重い役職であると、また人前で話すことが苦手な営業も苦手であった私に委員長というチャンスをいただけて少しでも成長できたこと、8人の拡大に成功しなおかつ女性が2名増えたことは私のみならず、委員会メンバーはもちろんの事、会員全員の結果だと考え感謝を申し上げます。

55周年記念委員会

- 担当副理事長名：二見 宏史
- 副委員長名：松永 充広
- 委員名：竹村 眞、永田 磨梨奈、松原 洋平、吉田 健次、三宅 孝昌

1) 事業報告

(I) 交流事業の開催

- (a) 内 容：メモリアルデーの開催
- (b) 時 期：2019年 3月
- (c) 開催場所：アマンダンブルー鎌倉
- (d) 対 象：会員22名、OB20名

(II) 市民に当会議所を認知・共感してもらうための記念事業の開催

- (a) 内 容：55周年記念事業の開催
- (b) 時 期：2019年10月
- (c) 開催場所：鎌倉プリンスホテル
- (d) 対 象：会員18名、市民157名

(III) 55周年記念誌の作成

- (a) 内 容：55周年記念誌の作成
- (b) 時 期：2019年1月～12月

(IV) 記念品の作成

- (a) 内 容：記念品の作成
- (b) 時 期：2019年5月

2) 委員会報告

本年度、55周年記念委員会は、明るい豊かな社会の実現を目指して、鎌倉青年会議所がこれからも長く継続的にまちづくり運動を続けていくために、これまでの当会議所の歴史を築きあげてこられた諸先輩方、それに共感して下さった市民の皆様との強いつながりを今まで以上にもち続けることを考えて活動してきました。

交流事業として、55周年記念のメモリアルデーの開催し、設立にご尽力頂いた公益社団法人横須賀青年会議所様並びに55年間活動を続けてこられたOB諸氏に敬意を表し感謝を伝え、ともに祝い交流を深めました。

市民に当会議所を認知・共感してもらうための記念事業として、公益社団法人鎌倉青年会議所設立55周年記念事業「子どもの自己肯定感と非認知能力を伸ばす子育てと教育について」と題し、東京大学大学院教育学研究科教授の遠藤利彦先生による講演会を開催しました。当事業を通じて子どもの教育について市民や教育関係者とともに学ぶことで、市民と当会議所の信頼・共感が高まり、ともにまちの未来について考えるきっかけとなりました。

記念誌を作成し、当会議所設立55周年という節目の年に、単年度制により連綿と続いてきた当会議所が今後もまちに対し運動を行っていく上で、先輩諸氏が築いてこられた歴史をより深く理解し、そこからより進化した運動を起こすきっかけ作りを行いました。

記念品としてポロシャツの作成を行い、節目の年である本年に、このまちを想い活動されてきた先輩諸氏の想いを受け継ぎ、改めて当会議所メンバーが今後のまちを考える機会となりました。

当委員会の取り組みにより、「明るい豊かな社会の実現」のための当会議所運動に寄与できたと確信いたします。当委員会の活動にご参加ご協力をいただきました全ての皆様に深く感謝を申し上げ、事業報告とさせていただきます。1年間、ありがとうございました。

総務渉外委員会

- 担当専務理事名：米澤 寿人
- 委員長名：片根 竜哉
- 副委員長名：山上 亮
- 委員名：魚住 智哉、大西 広朗、大森 啓田、河江 徳子、菅 倫明、斉藤 正朗、
中山 陽一、メタ バラッツ
- 作成者名：片根 竜哉

1) 事業報告

(I) 会議の開催及び青年会議所運営全般

- (a) 内容：総会並びに理事会の開催、青年会議所の運営
- (b) 時期：2019年 1月～12月
- (c) 結果：理事会をスケジュール通りに、定足数を満たし開催いたしました。
第112回総会 出席23名 委任状6通
第113回臨時総会 出席24名 委任状8通
第114回臨時総会 出席20名 委任状15通

(II) 交流会の開催

- (a) 内容：新年式典・賀詞交歓会、次年度理事長を祝う会、卒業生を送る会の開催
- (b) 時期：2019年1月、7月、12月
- (c) 結果：
新年式典・賀詞交歓会 会員26名、OB26名、来賓29名、来訪JC68名、ゲスト参加1名
次年度理事長を祝う会 会員24名、OB18名
卒業生を送る会の開催 会員35名、OB23名

(III) 神奈川ブロック大会から使命感を得て学ぶ事業

- (a) 内容：神奈川ブロック大会横須賀大会への参加
- (b) 時期：2019年 9月7日
- (c) 結果：会員17名、OB4名

(IV) 渉外に関する事業

- (a) 内容：公益社団法人日本青年会議所本会、関東地区協議会並びに神奈川ブロック協議会の事業への参加、出向者支援、関係諸団体事業への参加
- (b) 時期：2019年 1月～12月
- (c) 結果：年間を通じて、参加を促進し、出向を支援することができました。

(V) 広報に関する事業

- (a) 内容：鎌倉青年会議所の運動発信、ホームページ、SNSの管理、運営
- (b) 時期：2019年 1月～12月
- (c) 結果：年間を通じて、ホームページの更新、SNSの管理を行うことができました。

2) 委員会報告

2019年度総務渉外委員会では、当会議所の方向性を力強く共有し繋いでいく機会を創出するとともに、会員同士がそれぞれの観点から議論を重ねて目的に沿った事業を展開できるように下支えする強固な組織運営をすることが、明るい豊かな社会の実現に向けて活動する当会議所の根幹を支える一助になると考え、一年間活動しました。

会議の開催及び青年会議所運営全般では、重要な意思決定機関である総会及び理事会に会員の積極的な参加を促し、会議運営手法の浸透させることによって、円滑な会務運営を行いました。次に、交流会の開催では、当会議所の歴史と伝統を形作っていただいたOB諸氏、関係諸団体の皆さまとの交流を図りました。その関りの中から会員が地域社会の中で果たすべき役割について学び、当会議所の方向性を強く共有いたしました。渉外に関する事業の一つとして、神奈川ブロック大会横須賀大会への参加を行い、LOM単体では経験しがたいスケールの大きな事業とLOMの垣根を超えた多くの人との交流を体験し、出向者の支援と共に会員同士の結束に繋がりました。また、公益社団法人日本青年会議所本会、関東地区協議会並びに神奈川ブロック協議会の事業への積極的な参加を促すと共に、出向する会員が修練の場において研鑽を積めるように支援することで、より強い会員同士の結束に繋げてまいりました。

当委員会の活動によって、会員が過去から学び、互いに団結し当会議所の目的を強く共有し、仲間を思いながら、まちの未来を想う活動を継続することにより、今年度当会議所のテーマである「覧古考新」の実現に近づくことができたと考えております。

最後になりますが、委員長という役を任せて下さった潮見理事長、いつも優しく、きめ細やかなご指導をいただきました米澤専務、より良い事業構築のために様々なご意見をくださいました正副理事長と両監事の皆様、そして、日々の委員会の運営を支えていただき、率先して協力して下さった委員会メンバーの皆様に深く御礼を申し上げ、委員会報告とさせていただきます。1年間、本当に有難うございました。

2019 年度 出向者報告

■公益社団法人 日本青年会議所

サマーコンファレンス運営特別委員会

委員 長野 トーマスマコト

2019年度、私はサマーコンファレンス運営特別委員会の委員として出向者しました。委員会では他LOMに在籍している様々なメンバーと交流することができ、神奈川県のみならず、他県の方々と共に活動することができました。又、サマーコンファレンスという重大な事業を運営する貴重な経験ができ、今後の自分の活動に活かし頑張っていきたいと改めて感じました。最後に、このような素晴らしい機会をくださいました潮見理事長をはじめといたします鎌倉青年会議所メンバーに感謝を申し上げ、出向報告とさせていただきます。ありがとうございました。

サマーコンファレンス運営特別委員会

委員 根本 紗央里

2019年度は日本青年会議所サマーコンファレンス運営特別委員会に出向させていただき、第2小委員会に配属されました。報告といたしまして、サマーコンファレンスを開催するにあたり、事前の広報や当日のゲストなどのアテンド等を行いました。参加するたびに日本全国にJCメンバーの知り合いができ、とてもいい経験をさせていただきました。この経験を活かし、来年以降はサマーコンファレンスの良さをLOMにもちかえり、より多くのメンバーに参加動員につなげられるよう励みます。鎌倉青年会議所理事長はじめ、たくさんのメンバーにご支援いただき、無事担いを終えることができましたことをこの場をおかりしまして御礼申し上げます。一年間大変お世話になりました。

渉外委員会

委員 奥西 希正

2019年度、私は日本青年会議所の総務グループ渉外委員として出向させていただきました。渉外委員として日本各地に赴く中で多くの絆を育み、様々な学びを得ることが出来ました。

出向という機会を頂きました潮見理事長をはじめ、鎌倉青年会議所のメンバー、ご指導頂いたすべての皆様に深く御礼申し上げます。一年間有難うございました。

■公益社団法人 日本青年会議所 関東地区 神奈川ブロック協議会

神奈川ブロック協議会

会長

大崎 厚郎

2019年度、私は公益社団法人日本青年会議所関東地区神奈川ブロック協議会へ会長として出向させていただきました。ブロック協議会の会長には、公益社団法人日本青年会議所の掲げる運動を推し進め、神奈川県内の各種課題を解決する為の県内での運動を推し進め21会員会議所の付託と信頼に答えていく二つの役割があったと考えております。会長として全役員と力を合わせ、県内各地会員会議所から出向を頂いた会員と共に多様な方々との関係性を構築することで、絆を創り、県内の様々な課題解決に挑戦をして参りました。出向者との触れ合いや事業構築をしていくのは大変楽しいものであり、貴重な経験をさせて頂きました。また、どの事業をとっても県内21会員会議所の為になる有益なものであったと考えています。

神奈川ブロック協議会の会長として出向させて頂いた経験は、神奈川という地域を日本のスケールで俯瞰的に見る機会であり、それはそのまま鎌倉青年会議所の現状を改めて認識する大きな機会となりました。この青年会議所での出向という大きな機会を得られる成長や喜びを鎌倉青年会議所の皆様にお伝えをしていくと共に来年度も出向で得た貴重な経験を青年会議所活動に活かしていきたいと思っております。

最後に、出向という機会を与えて下さった潮見理事長をはじめとする鎌倉青年会議所の皆様、特に運営専務として協議会の仕切りを行って頂いた牧田芳明君、事務局長として事務方を一手に引き受けてくれた松永充広君に心からの感謝を申し上げ出向者報告とさせていただきます。

神奈川ブロック協議会

運営専務

牧田 芳明

私は2019年度神奈川ブロック協議会に運営専務として出向させていただきました。神奈川ブロックへは何度か出向させて頂いたことがありますが、役員としての出向は初めてで、次年度段階では右も左もわからずに暗中模索をくりかえしつつ何とか前に進もうと足掻いておりました。

しかし、年度が進んでいくにつれて経験豊富な役員の皆様のご協力もあり、徐々にではありますが運営専務としての業務を理解できるようになり、日本本会や、関東地区協議会の事業に参画する機会も頂きながら、様々な気づきと学びを頂くことが出来ました。そしてその中で、私の心に一番強く残っているものは、神奈川ブロック協議会という組織は、日本の中でも有数の本当に素晴らしいブロック協議会であるという事実を、実感として感じる事が出来たことです。「神奈川は一つ」、これは神奈川ブロック協議会内でたびたび耳にする言葉ですが、これはただの言葉ではなく、神奈川ブロック協議会というものを一言で表した、素晴らしい言葉であると思っております。

この素晴らしい神奈川ブロックという組織の役員として一年を過ごさせていただいたことは、私の誇りです。出向をさせていただきました潮見理事長、共に活動をしてきた松永事務局長をはじめとする事務局メンバーの皆様、本当にお世話になりました。そして何よりこの大きな経験をさせていただきました大崎会長に感謝を申し上げ出向者報告とさせていただきます。一年間本当にありがとうございました。

神奈川ブロック協議会

局長

松永 充広

本年度、私は公益社団法人日本青年会議所関東地区神奈川ブロック協議会事務局局長として出向させていただきました。事務局の担いである、全体会議の設えや京都會議ブロックナイトの設営、ASPAC 済州大会でのブース出展。緒会議の設営をさせていただきました。日々行われている青年会議所活動の根幹を学ぶことが出来、それが青年会議所運動へと昇華される瞬間を体験できた事は今後の私の人生の中で大きな財産となりました。

最後になりますが潮見理事長をはじめとされる鎌倉青年会議所のメンバー、ともに出向した県内青年会議所メンバーの皆様に感謝申し上げ、出向者報告とさせていただきます。

一年間有難うございました。

会員会議所連絡会議

委員

片根 竜哉

本年度、私は日本青年会議所関東地区神奈川ブロック協議会、会員会議所連絡会議の委員として出向させていただきました。本会議体の役割としては、会長公式訪問の準備、設えを行い、また「志塾」と称して県内21LOMの志高き同士の皆様と研鑽に励みました。今回の出向を通じて、LOMの中では気づき得なかった広い視野で物事を捉えることなど多くの学びがありました。この経験を活かして今後の活動に邁進して参りたいと思います。今回、このような貴重な機会を賜りました潮見理事長、そして本会議体の活動にご理解とご協力を賜りました多くのメンバーの皆様に心から感謝を申し上げ、出向者報告と代えさせていただきます。

会員会議所連絡会議

委員

米澤 久人

本年度、私は神奈川ブロック協議会の会議体の一つである会員会議所連絡会議に委員として出向させて頂く機会を頂きました。当会議では、神奈川ブロックの会長が各地青年会議所をまわる会長公式訪問の設えや年間3回行われる志塾の設営を行いました。ここでは各地青年会議所の専務をはじめとする多くの方々との出会いは、私にとってかけがえのないものとなりました。鎌倉青年会議所という組織から出向して、各地の仲間たちと共に過ごし、意見を交わす中で、改めて鎌倉の良い点、誇れる点に多く気づく機会を頂きました。

一年間、本当にありがとうございました。

拡大アカデミー委員会**委員****柿崎 孝宏**

2019年度、初の委員長の立場になり、拡大研修委員会という鎌倉青年会議所にとって非常に重要な拡大をお受けすることとなりました。拡大についてまた青年会議所についてまだ浅い為、勉強をする為に神奈川ブロック協議会の拡大アカデミー委員会に出向させていただきました。拡大、委員長の仕事をしながらではありますが、予定の合う日は常に参加させていただき、出会いや気付きました拡大に対する気持ちを高める機会になり充実した年になりました。出向し多くの仲間ができ、多くの事を経験できたことを感謝申し上げ報告とさせていただきます。

拡大アカデミー委員会**委員****中村 太一**

2019年度、私は拡大アカデミー委員会に出向させていただきました。ブロックの委員会では、他LOMのメンバーと交流し、意見交換ができました。しかし、自分が思ったほど出席できなかった部分があり、貴重な経験を活かしきれなかったことをこれからの活動に活かしていきたいと思っています。出向という機会を頂きました潮見理事長をはじめ、鎌倉青年会議所のメンバー、ご指導いただいた全ての皆様に深く御礼申し上げます出向者報告とさせていただきます。一年間有難うございました。

拡大アカデミー委員会**委員****西崎 肇**

本年度、私は日本青年会議所関東地区神奈川ブロック協議会拡大アカデミー委員会に委員として出向させて頂きました。当委員会が開催した公開委員会では、「JCI Impact」を私の経営する店で開催しましたが、1年間の委員会活動の中で自分が思ったよりも出席できず、自ら志願したにも関わらず、昨年の副委員長の経験を活かせなかったことは大変残念に思っております。

最後になりますが、出席が芳しくない私をいつも温かく迎えてくれた小林委員長をはじめとする拡大アカデミー委員会の皆様、出向の機会をくださいました潮見理事長をはじめとする鎌倉青年会議所のメンバーの皆様に、深く御礼を申し上げます、出向者報告に代えさせていただきます。1年間ありがとうございました。

事務局

運営委員

磯野 享史

2019年度は神奈川ブロック事務局へ出向しました。
神奈川ブロックで行われる会議の設営から運営まで裏方役として、滞りなく準段取りをしていくのがお役目であり、常に完璧な運営を求められ、全員が各々の役割をこなし、連携することが重要であると思います。
事務局長の松永君をはじめ、各LOMの方々集まり、協力する姿勢から多くの学びを得ることが出来ました。

事務局

運営委員

今村 広太郎

私は本年度、神奈川ブロック協議会事務局運営委員として出向の機会を賜りました。当LOMから、ブロック会長が輩出される貴重な時期に、会議運営のサポートをはじめ、組織基盤の下支えをする事務局に配属されましたことは、とても有意義であり自分自身の成長の糧となりました。また、出向することにより、自らのLOMを客観視することができました。そこで得た知識や見識をLOMに持ち帰り、これからの活動に繋げていきたいと思えます。そして何よりも、出向は多くの出会いがあり、共に出向した当LOMの仲間の皆様にも恵まれ充実した経験を積むことができました。これまでの1年間、若輩者の私を、あたたかく迎えて下さいました出向先のブロック会長、運営専務、事務局長と多くの仲間の皆様と、私の背中を押して出向させて下さいました潮見理事長をはじめ、LOMの仲間の皆様には大変お世話になりましたことを衷心より感謝を申し上げ、出向者報告とさせていただきます。

事務局

運営委員

奥西 希生

2019年度、私は神奈川ブロック協議会の事務局運営委員として出向させて頂きました。神奈川ブロック協議会で運営や設営といった担いを行う中で、多くの気づきと学びを得ることが出来ました。
出向という機会を頂きました潮見理事長をはじめ、鎌倉青年会議所のメンバー、ご指導頂いたすべての皆様に深く御礼申し上げ出向者報告とさせていただきます。一年間有難うございました。

事務局

運営委員

根本 紗央里

2019年は日本青年会議所関東地区神奈川ブロック協議会に出向させていただき、事務局委員を経験させて頂きました。

報告といたしまして、まず全体会議の設えや会員会議所会議、役委員会議の会議の設え、そして会長のアテンド等を努めました。全体会議ではホテル会場照明を第1回、第2回と担当し、初めての事務局への出向で会議の行い方、裏方の担いなど沢山のことを勉強させていただきました。

鎌倉青年会議所理事長はじめたくさんのメンバーにご支援いただき、無事担いを終えることができましたことをこの場をおかりしまして御礼申し上げます。一年間大変お世話になりました。

事務局

運営委員

松原 洋平

2019年度、私は神奈川ブロック協議会に事務局の運営委員として出向させていただきました。神奈川ブロック協議会では運営や設営といった設えを準備する中で、様々な気づきや学びを得ることができました。

出向という機会を頂きました、鎌倉青年会議所理事長をはじめ、メンバー、ご指導いただいたすべての皆様に深く御礼を申し上げ、出向者報告とさせていただきます。一年間ありがとうございました。